

科目名		経営管理工学(Industrial Management Engineering)								
学年	専攻	単位数	必修/選択	授業形態	開講時期	総時間数				
第2学年	生産システム工学専攻 物質工学専攻	2単位	選択	講義	後期	90時間				
担当教員		【常勤】准教授 挾間 雅義、教授 岩本 英久(呉高专)、未定(徳山高専)								
学習到達目標										
科目の到達目標レベル		<ul style="list-style-type: none"> 経営管理、販売管理についてやや難しい知識を理解し、発展的に応用できる。ビジネスプランについては自主的かつ発展的にチームをリードしながら構築できる。 経営工学手法を理解し、モデルを作成することができる。 								
到達目標(評価項目)		優れた到達レベルの目安	良好な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安	未到達レベルの目安					
到達目標①		経営管理・販売管理について、やや難しい知識を有することができ、発展的に応用できる	経営管理・販売管理について、正しく理解でき、応用できる	経営管理・販売管理について、ある程度の知識を有し、すこし応用できる	経営管理・販売管理について少しの知識しか有さず、応用もできない					
到達目標②		ビジネスプランを自主的かつ発展的にチームをリードしながら構築できる	ビジネスプランを自主的に構築できる	ビジネスプランを定められた書式の範囲内で構築できる	ビジネスプランを構築できない					
到達目標③		プログラミングを用いて作成し、シミュレーションをすることができる	経営工学手法を用いてモデルを構築することができる	経営工学手法の基本部分を理解できる	経営工学手法を理解できない					
学習・教育到達目標		D①		JABEE基準1(2)		(d)-(3)				
達成度評価(%)										
評価方法		中間試験	期末・学年末試験	小テスト	レポート	口頭発表	成果品	ポートフォリオ	その他	合計
指標と評価割合										
総合評価割合		40	40		20					100
知識の基本的な理解【知識・記憶、理解レベル】		◎	○							
思考・推論・創造への適用力【適用、分析レベル】		○	◎		○					
汎用的技能【情報収集、活用、発信力】					○					
態度・志向性(人間力)【主体性】					○					
総合的な学習経験と創造的思考力【創成能力】					○					

関連科目、教科書および補助教材	
関連科目	経営工学 I A、経営工学 I B、経営工学 II A、経営工学 II B、マーケティング論、生産管理論
教科書	プリントを配布する
補助教材等	プリントを配布する
学習上の留意点	
<p>応用的な内容を扱うため、少し難しいと思うかもしれないが、わからない部分はまず、自分たちで調べ、次に教員に質問することで解決させておく必要がある。半期の中で講義とグループワーク形式により、他高専間の学生と交流し、コミュニケーションを取りながら、いろいろな視点で経営工学特論(呉高専では経営管理工学)の内容を理解する。</p>	
担当教員からのメッセージ	
<p>他高専生との交流形式で授業を行いますので、楽しみながら取り組んでください。</p>	

授業の明細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	1.連携教育に関するガイダンスと遠隔チーム編成	・授業の進め方について理解できる ・遠隔チーム編成が構築できる	(予習)Office365などICTの操作の習得
2	2.企業経営の基礎と起業計画および販売管理	・企業経営の基礎を理解し、起業・創業の基礎を理解できる ・ビジネスプラン作成方法を理解する ・市場調査、プロモーションミックス、AIDMAを理解できる	(復習)ビジネスプラン作成方法と販売管理について
3	3.販売管理ワークショップ	・広告に関するワークショップ(WS)を通じて、遠隔グループワークを実践できる	(予習)AIDMA (復習)チームでまとめた内容の確認
4	4.ビジネスプラン作成WS1ガイダンス	・テーマを理解し、市場調査方法、原価計算法、利益計画立案方法を理解することができる	(予習)ビジネスプラン作成方法について (復習)市場調査方法、原価計算法、利益計画立案法
5	5.ビジネスプラン作成WS2	・仮想商品の市場調査を実施できる ・原価を想定し、利益計画を立てることができる ・チームで役割分担し、チームワークができる	(予習)Office365などICTの操作 (復習)チームの情報共有と整理
6	6.ビジネスプラン作成WS3	・ビジネスプランを発表することができる ・ビジネスプランをレポートにまとめることができる	(予習)チームで収集した情報の集約 (復習)レポートの作成
7	中間試験		
8	8.スケジューリング手法WS1ガイダンス	・スケジューリングに関して、基礎から復習し、演習問題が解くことができる	(予習)VBAIについて理解する (復習)レポートにより内容を理解すること
9	9.スケジューリング手法(PERT)WS2	・スケジューリングに関する演習問題を解き、やや複雑な内容の問題を解くことができる	
10	10.スケジューリング手法(PERT)WS3	・プログラミングを用いて、スケジューリングモデルを作成することができる	
11	11.待ち行列理論WS1ガイダンス	・待ち行列に関する方法論を理解することができる	
12	12.待ち行列理論WS2	・待ち行列に関して、基本的な問題の解を導くことができる	
13	13.待ち行列理論WS3	・基本的な待ち行列モデルを作成することができる	
14	14.待ち行列理論WS4	・やや複雑な待ち行列モデルを理解し、応用することが出来る	
	学年末試験		
15	答案返却、解答解説	・試験問題の解説を通じて、間違った箇所を確認し、理解することができる	
総学習時間数			90 時間
講義			30 時間
自学自習			60 時間